

「中津市上下水道耐震化計画」の概要

令和7年1月策定

1. 策定の経緯

令和6年1月に発生した能登半島地震において、水道・下水道施設が甚大な被害を受け復旧までに長期間を要する事態となりました。このことから令和6年9月に国土交通省から、全国の水道事業者及び下水道管理者に対し、「上・下水道一体で耐震化」を進めるための計画を策定するよう要請があり策定に至りました。

2. 計画期間

令和7年4月～令和12年3月（5年計画）

3. 計画の内容

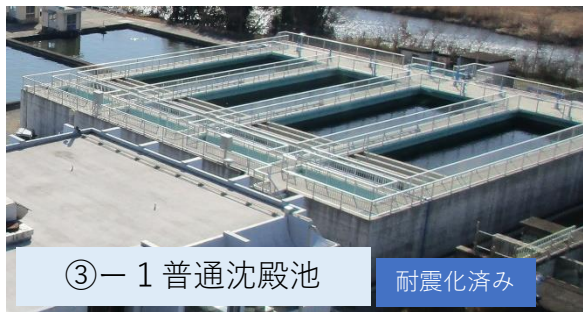
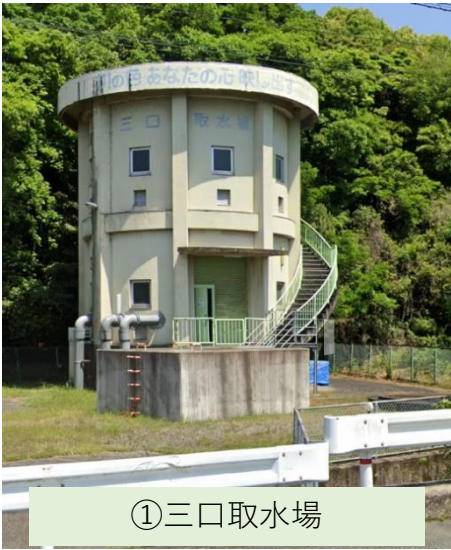
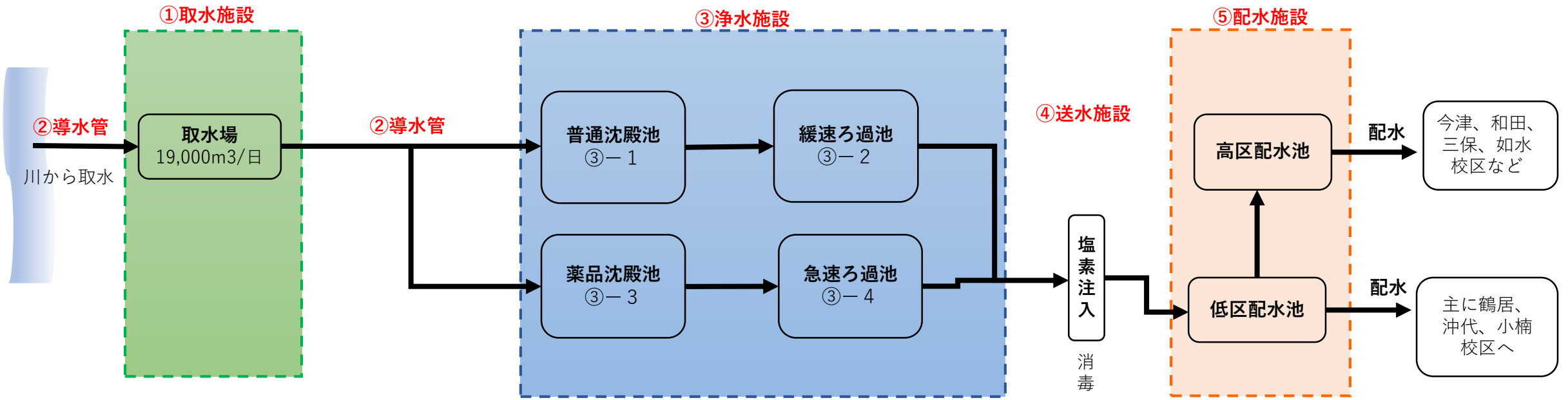
（1）急所施設（浄水場、下水処理場）の耐震化

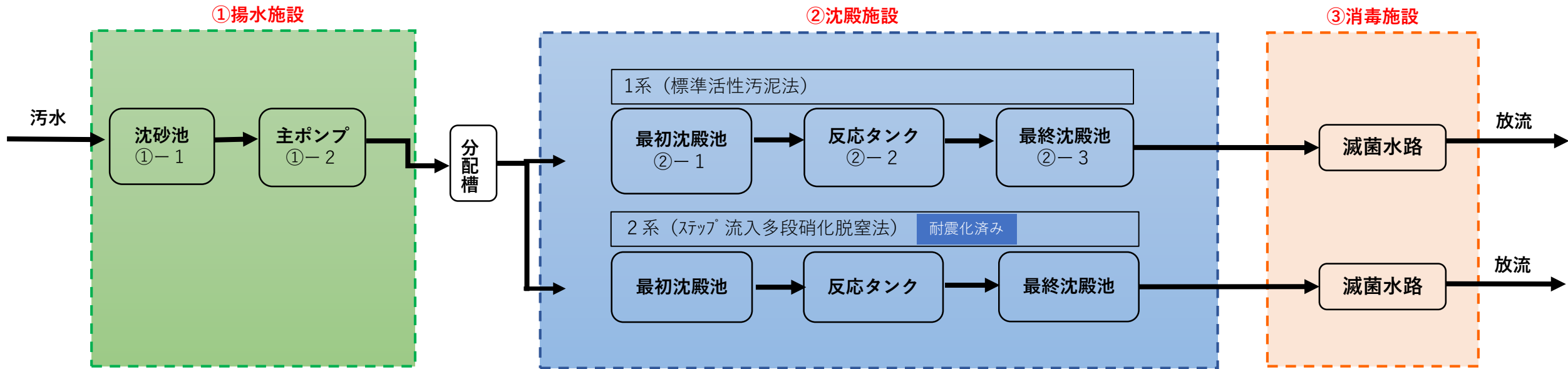
1) 浄水場・・・①取水施設、②導水施設、③浄水施設、④送水施設、⑤配水施設

2) 下水処理場・・・①揚水施設、②沈殿施設、③消毒施設

（2）重要施設（医療機関、避難所、災害拠点）に接続する水道・下水道管の耐震化

上記の(1)(2)について計画最終年度の目標値を掲げています。





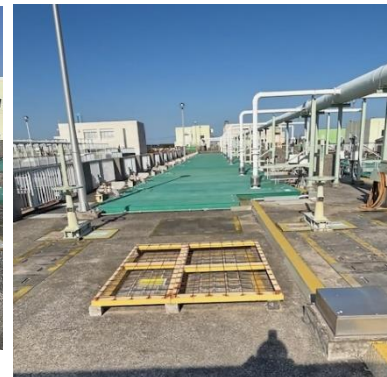
①-1 沈砂池



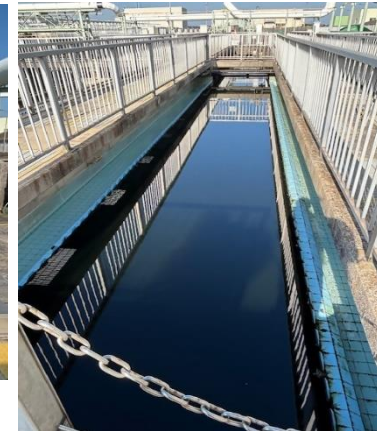
①-2 主ポンプ



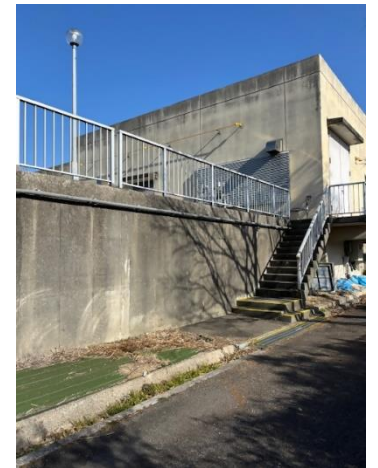
②-1 最初沈殿池



②-2 反応タンク

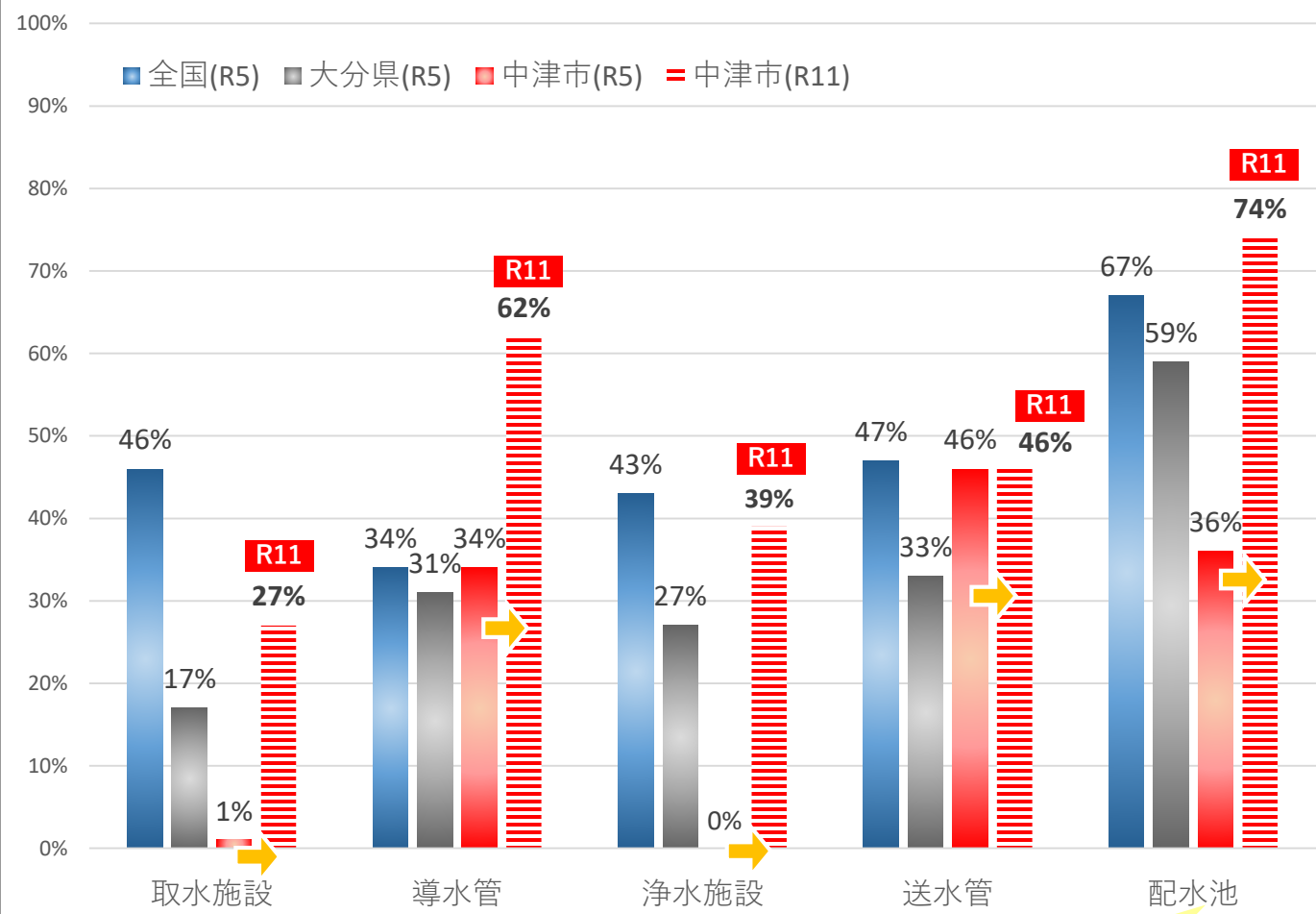


②-3 最終沈殿池



③ 滅菌水路

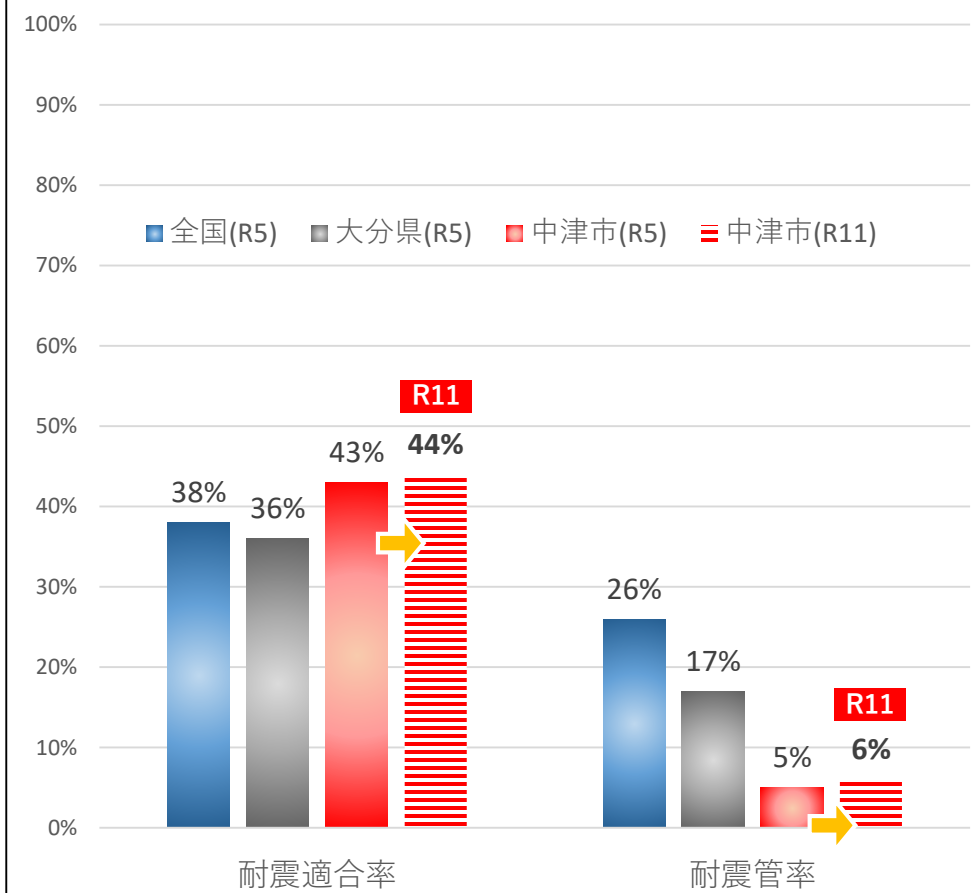
① 急所施設〈浄水場〉の耐震化率



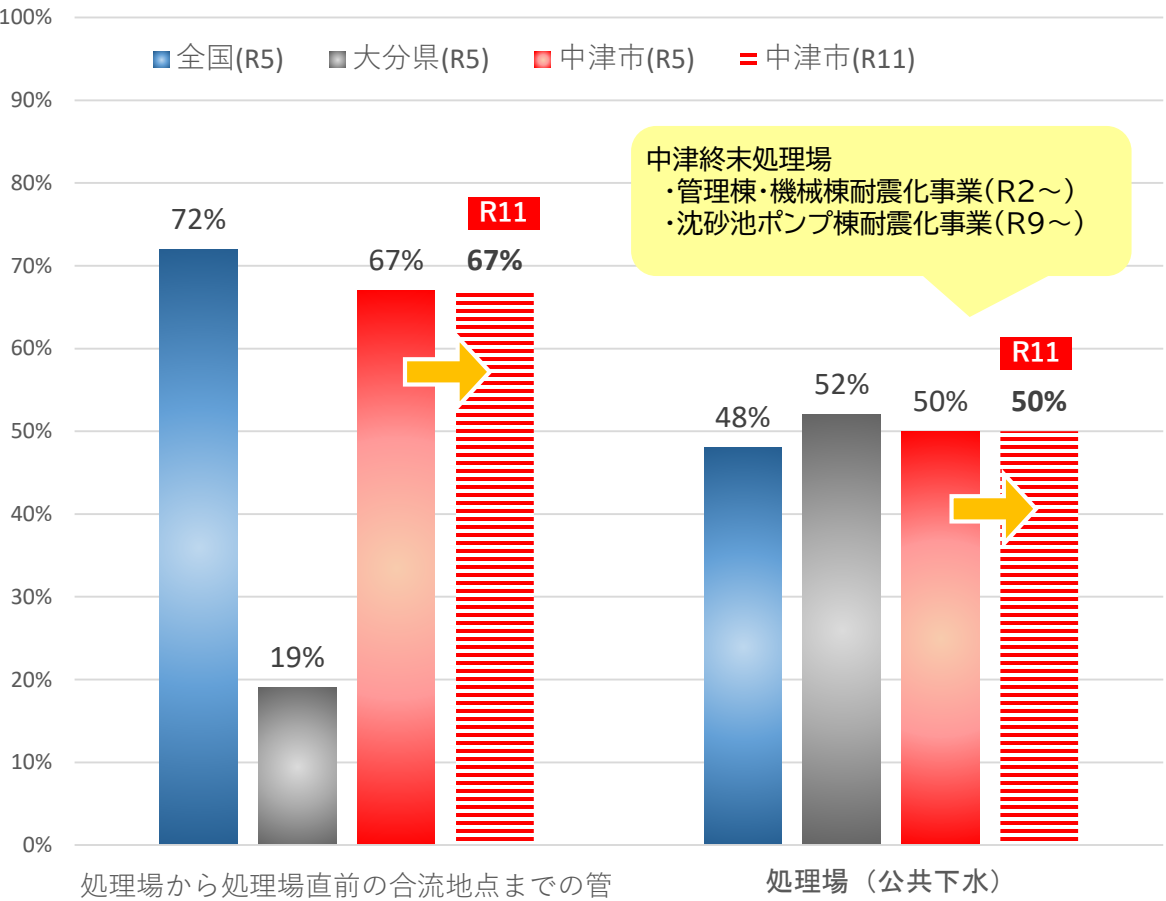
三口浄水場既存配水池の更新（R7完成）

$$\frac{15,223\text{m}^3}{20,489\text{m}^3} = 74\%$$

② 重要施設までの管（配水管）の耐震化率
〈浄水場を出てから重要施設まで〉



③ 急所施設〈処理場〉の耐震化率

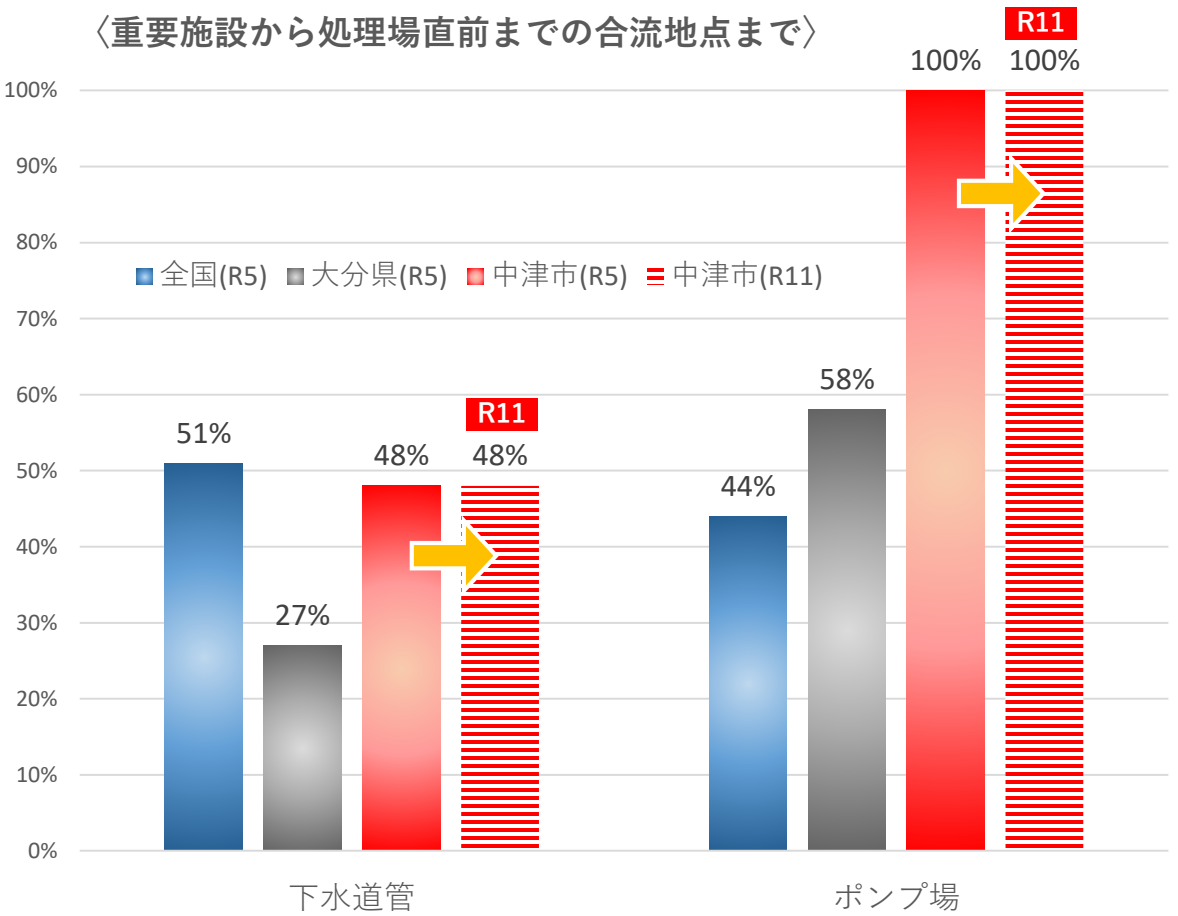


・耐震診断調査(R8～)
・実施設計(R9～)
・耐震化工事(R10～)

・中津終末処理場
・山国浄化センター(※耐震性能あり)

中津終末処理場
・管理棟・機械棟耐震化事業(R2～)
・沈砂池ポンプ棟耐震化事業(R9～)

④ 重要施設に接続する管、ポンプ場の耐震化率
〈重要施設から処理場直前までの合流地点まで〉



・三光汚水中継ポンプ場(※耐震性能あり)

※平成9年以降（阪神淡路大震災後の耐震指針）に設計・建設された施設は耐震性能あり。

中津市の重要施設の設定（48施設）

1. 下水道区域内 35施設（農業集落排水含む）

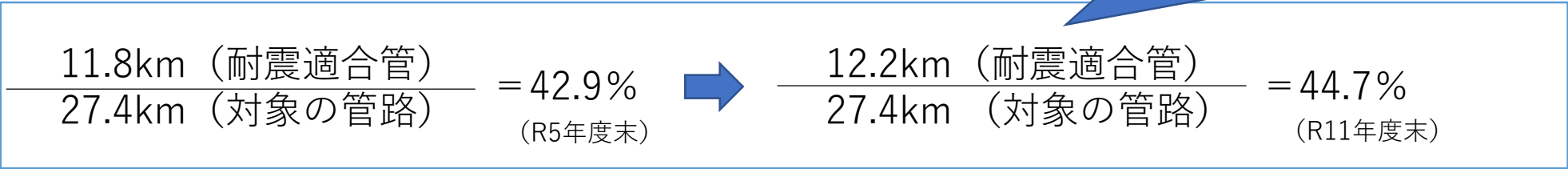
区分	施設名
医療機関（7施設） ＜災害拠点・救急・透析＞	市民病院、酒井病院、梶原病院、川畠整形外科病院 松永循環器病院、中津第一病院、村上記念病院
避難所（20施設） ＜指定緊急避難場所＞	公民館（南部、北部、豊田、沖代、城井）、コミュニティセンター（小楠、鶴居） 小学校（南部、北部、豊田、沖代、小楠、鶴居、樋田、下郷、三郷） 鶴居文化センター、城北中学校、県立工科短期大学校、やまくにスポーツパーク体育館
災害拠点（8施設）	市役所、消防署、警察署、上下水道部、三光支所 耶馬溪支所・耶馬溪コミュニティセンター、コアやまくに（山国支所）

2. 下水道区域外 13施設

区分	施設名
医療機関（3施設）	中津胃腸病院、中津脳神経外科病院、大貞病院
避難所（10施設） ＜指定緊急避難場所＞	公民館（如水、大幡）、コミュニティセンター（和田、今津）、三保交流センター、中津東体育館 グッドハイツ九州アリーナ、旧山移診療所医師住宅、深耶馬温泉館、槻木交流センター

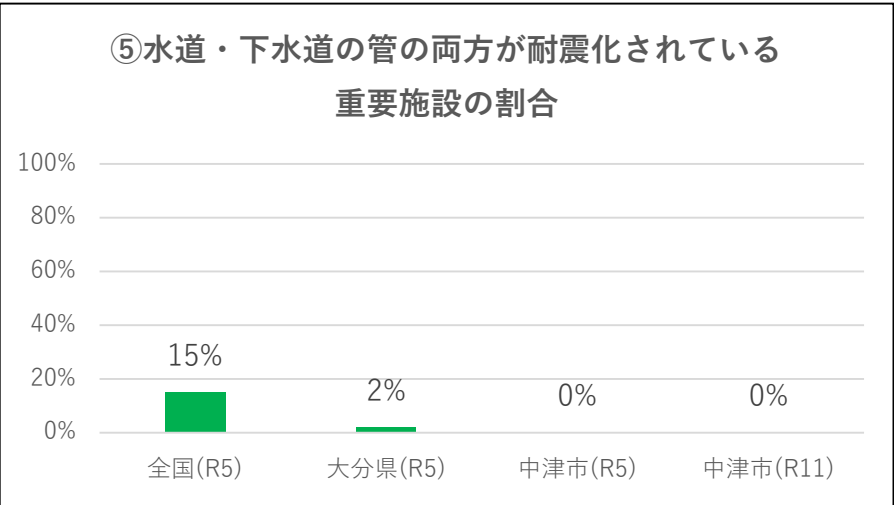
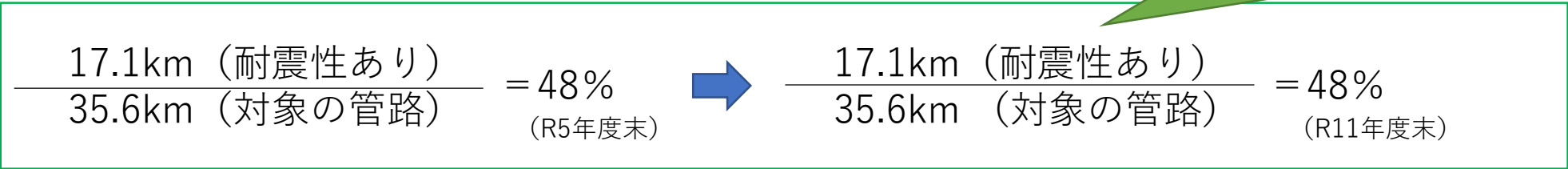
①重要施設に接続する管路の耐震化【水道】

浄水場の耐震・更新事業を優先しつつ、老朽管の更新も継続して実施



②重要施設に接続する管路の耐震化【下水道】

処理場の耐震化、処理場～処理場直前の合流地点の管を優先



参考

三口浄水場 供用開始：昭和 3年 4月 <96年経過>
中津終末処理場 供用開始：昭和61年 4月 <38年経過>

水道管（配水管）の総延長：576km（R5年度末）※旧簡易水道を含む
下水道管（污水）の総延長：345km（R5年度末）※農業集落排水施設を含む